

第3学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「物語のしかけのおもしろさをつたえ合おう」 教材名「ゆうすげ村の小さな旅館」

2 単元の目標

行動や様子を表す語句の意味を場面に戻って確かめ、紹介文で使える。物語の仕掛けを叙述から考え、そのおもしろさを伝え合い、感じ方の違いに気付ける。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①行動や様子を表す語句の意味を場面に戻って確かめ、紹介文で使っている。（〔知識及び技能〕(1)オ）	①「読むこと」において、物語の仕掛けを叙述から考え、そのおもしろさを伝え合い、感じ方の違いに気付いている。（C(1)オ・C(1)カ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

物語の終わりから前の場面を読み返し、初めには気付かなかった仕掛けのおもしろさを考える。意外だったという感想から先へ進み、後で意味が変わって感じられた言葉や行動を示す。学習指導要領のC(1)オ・C(1)カを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)オを、言語活動の中で確かめる。

（2）児童について

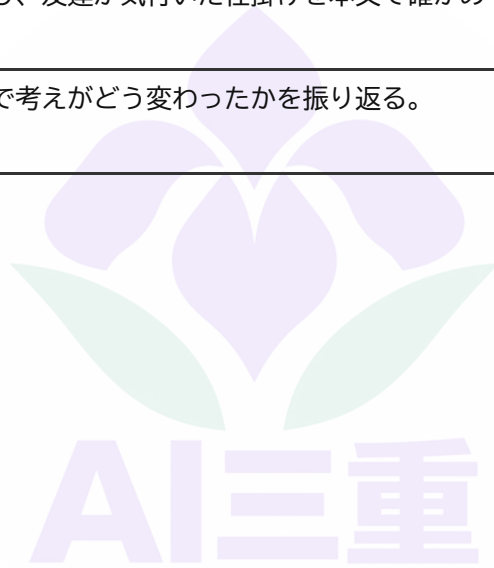
（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

初読のメモを残し、再読で気になった語句を別の印で記す。最後の出来事と前の叙述を組にして説明する。気付かなかった児童にも結末を知ってから読む時間を用意する。おおむね満足できる状況は、物語の仕掛けを叙述から考え、そのおもしろさを伝え合い、感じ方の違いに気付いているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全9時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○全文を読み、初めに驚いたことと気になった言葉を記録する。	学習状況を見て支援する。
第2次	2～3	○人物と出来事の順を確かめ、最後の場面の内容を捉える。	知①（語句や内容の整理）
	4～5	○前の場面を読み返し、最後の出来事と関係する叙述を探す。	学習状況を見て支援する。
	6 （本時）	○初読と再読で感じ方が変わった言葉を挙げ、仕掛けのおもしろさを伝える。	思①（発言・学習記録）
	7	○根拠を添えて仕掛け紹介カードを書く。	学習状況を見て支援する。
	8	○カードを交流し、友達が気付いた仕掛けを本文で確かめる。	学習状況を見て支援する。
第3次	9	○読み返すことで考えがどう変わったかを振り返る。	態①（学習前後の記録・振り返り）



6 本時の指導 (6/9)

(1) 本時の目標

物語の仕掛けを叙述から考え、そのおもしろさを伝え合い、感じ方の違いに気付ける。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「最後まで読んでから前の場面を読むと、どの言葉や行動が違って見えますか。どんな仕掛けのおもしろさがありますか」 【めあて】物語の終わりから前の場面を読み返し、初めには気付かなかった仕掛けのおもしろさを考える。 〈予想される児童の反応〉 ・初めは普通の行動だと思ったが、後から意味が分かる。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「最後まで読んでから前の場面を読むと、どの言葉や行動が違って見えますか。どんな仕掛けのおもしろさがありますか」 自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・初めは普通の行動だと思ったが、後から意味が分かる。 ・終わりの出来事と前の言葉がつながっている。 ・友達が見付けた言葉は自分は気にしていなかった。	初読のメモを残し、再読で気になった語句を別の印で記す。最後の出来事と前の叙述を組にして説明する。気付かなかった児童にも結末を知ってから読む時間を用意する。 想定する難しさ：結末の驚きだけを話す。本文にない仕掛けを想像で作る。児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 物語の仕掛けを叙述から考え、そのおもしろさを伝え合い、感じ方の違いに気付いている。(発言と学習記録)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・友達が見付けた言葉は自分は気にしていなかった。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「最後まで読んでから前の場面を読むと、どの言葉や行動が違って見えますか。どんな仕掛けのおもしろさがありますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

